

時代の転換期学習としてのオープンエンド型授業

——中学校歴史的分野“開国”を事例として——

永田成文

本稿では、中学校歴史的分野での典型的な時代の転換期学習である小单元“開国”を取り上げる。この小单元の授業をオープンエンド化することによって、生徒の歴史認識の変容にどのような違いが生じるのかを分析し、時代の転換期学習におけるオープンエンド型授業の効果を検証する。また、本小单元を世界的な視野から構成し、中学校段階で世界的な視野が有効であるかを検討する。この2つの課題を本実践中に用いるワークシートの回答から分析する。

1. 問題の所在

小单元“開国”については、小学校・中学校において必ず取り上げられ、様々な実践が開発されている。しかし、開国による日本の社会システムの急激な転換よりも、ペリー来航時の“開国か否か”に重点が置かれ、年代順の単元構成となっている場合が多い。そのため歴史事象の経過を、歴史そのものを学習する歴史科歴史¹⁾学習に陥っている。よって、従来の開国の実践では江戸幕府の支配体制から明治維新までの時代の転換の構造がとらえにくい。

また、従来の開国の実践では、江戸幕府の立場から開国をとらえる場合が多く、世界史的な背景を十分に生かしているとは言い難い。

2. 研究の特質と意義

(1) 研究の特質

時代の転換期には社会システムが変わる。従来の開国の実践では、開国を契機とした社会システムの転換が不明瞭であった。生徒が社会システムの変化を把握するためには、社会システムを構成する要素(視点)をおさえる必要がある。この要素をスムーズに追求していくためにオープンエンド型の授業²⁾を取り入れる。しかし、厳密な社会システムの転換の把握は高度な分析が必要であり、時間も限られているので、本実践では主として江戸幕府の支配体制に最も強いインパクトを与えた、外国・武士・庶民の三つの視点から江戸幕府の政策に対する動きを考察する。

また、従来の開国の実践では、江戸幕府の立場から開国をとらえている場合が多いため、“ペリーの威圧的態度とハリスの巧みな外交によって日本はしかたなく開国した”という歴史認識に帰結してしまいがちで

ある。本実践では、中学校歴史的分野は“世界史を背景に日本史学習をする³⁾”ことになっていることから、日本の開国の場面を世界的な視野から考察する。

(2) 研究の意義

従来のオープンエンド型授業の研究そのものが、授業実践に主眼が置かれ、その有効性まで検証した研究は少ない。小单元“開国”は、典型的な時代の転換期学習となる。本実践では、一時間完結型授業から構成した単元とオープンエンド型の授業から構成した単元を比較実践する。生徒の思考の多様性や高まり、作業での分析からオープンエンド型授業の有効性を検討できる。

また、本実践ではアメリカ合衆国の視点からとらえさせるので、中学校段階で世界的な視野から日本の開国の考察が可能なのかを検討できる。

3. 研究の方法

(1) 研究の方法

小单元“開国”は、江戸時代の鎖国政策について焦点をあてながら、江戸幕府の開国⁴⁾前後から明治維新⁵⁾までを考察する。1998年度に歴史を担当している二つのクラスについて、Aクラスは経過把握・課題解決型、Bクラスは視点把握・オープンエンド型で単元を構成する。特に江戸幕府政策の大転換点である開国の場面では、両クラスとも探究形式を採用し、日本の開国をより深く考察する。主に幕府の鎖国堅持・開国の場面で、世界的な視野を取り入れた学習を展開する。

オープンエンド型授業の有効性と世界的な視野で日本の開国の考察の分析は、各クラスで毎時間ワークシートを配布し、歴史事象の原因等について自分

の考えを書かせ⁶⁾、その記述をクラス単位で分析する。時代の転換期の社会システムの理解の分析である、外国・武士・民衆の各視点と江戸幕府の動揺が理解できているかに関しては、単元終了後の小テストによって分析する。

(2) 研究の方法論

Aクラスでは、ヨーロッパの市民革命、産業革命、アジアへの侵略の流れを受け、世界的な視野から『日本はなぜ開国しなければならなかったのか』というクエスチョンを、幕府の力の衰退とからめながら考察する。そのために、開国を境として、幕府の開国決定までを世界的な視野から考察し、開国後の幕府政治の混乱を武士・民衆の視点から考察する。具体的には、①諸外国が幕府に通商を求めるが、幕府が鎖国を堅持する。②ペリーの来航が幕府の支配体制を動揺させ、開国となる。③開国によって民衆は物価高で混乱し、武士から尊皇攘夷運動が高まり、攘夷の失敗により倒幕運動に変化する。④1866年には、百姓一揆・打ちこわしがピークに達し、反幕府最大勢力である薩長同盟が成立し、民衆も世直しを期待し、15代将軍徳川慶喜が大政奉還を決心する。という学習になる。

Bクラスでは、『国を開くとはどういうことか』というクエスチョンから、時代の変換期を諸外国の圧力による“経済的開国”と、新しい経済体制への模索として、矛盾する江戸幕府の支配体制に対する武士や民衆の直接行動による“政治的開国”の“二つの開国⁷⁾”を考える。そのために、幕府が開国しなければならなかった状況を世界的な視野から考察し、ペリー来航後から、大政奉還までの約15年間に急速に社会システムが転換したことを理解させる。

具体的には、①産業革命によって欧米がアジアに進出し、日本に通商を要求する。②ペリーの来航によって、経済的開国をする。③経済的開国によって、武士が尊皇攘夷運動から倒幕運動に変化し、密かに薩長同盟が成立する。④経済的開国によって、民衆が百姓一揆や打ちこわしから世なおしを期待し、内外の状況から判断して徳川慶喜が政治的開国を決断する。という学習になる。

4. 単元構成

(1) 2-Aの場合(経過把握・課題解決型)

- ① 単元“日本の開国”の構成
 - ・開国の要求……………1時間
 - ・黒船と開国……………1時間
 - ・開国後の日本……………1時間
 - ・薩長同盟と世なおし……1時間
- ② 単元“日本の開国”の各目標と項目

【第1限】

江戸幕府が諸外国の通商要求に対して、鎖国政策を堅持し続けたわけを考える。

- 1 外国船の出没
- 2 外国船打払令
- 3 天保の薪水給与令
- 4 オランダ国王勸告
- 5 鎖国政策堅持

【第2限】

なぜ、アメリカがいち早く日本と条約が結べたのか。

- 1 ペリー来航と開国
- 2 課題提示
- 3 ペリー来航の目的
- 4 世界の情勢と日本
- 5 日本の重要性

※大きな課題を小さな課題の解決から解決する探究方式を用いた。(図1・図2参照)

【第3限】

二百年続いた鎖国が終わり、日本の政治や経済はどのように変化したか。

- 1 貿易の相手
- 2 開国と物価
- 3 尊皇攘夷運動
- 4 攘夷の実行
- 5 倒幕の動き

【第4限】

なぜ、15代将軍徳川慶喜は大政を奉還したのか。

- 1 百姓一揆と打ちこわし
- 2 薩長同盟
- 3 ええじゃないか
- 4 慶喜の決断
- 5 鎖国政策の評価

(2) 2-Bの場合(視点把握・オープンエンド型)

- ① 単元“二つの開国”の構成
 - ・開国の要求……………1時間
 - ・黒船と開国……………1時間
 - ・封建体制の揺らぎ……………1時間
 - ・世なおし……………1時間
- ② 単元“二つの開国”の目標と項目

【第1限】

江戸幕府が諸外国の通商要求に対して、断固として鎖国を堅持し続けたが、ペリー来航の際はなぜ動揺したのか。

- 1 外国船の出没
- 2 外国船打払令
- 3 オランダ国王勸告

図1 2-A “黒船と開国” 学習指導案

本時の目標

- ・ペリーの来航が鎖国体制を堅持していた江戸幕府を揺るがした理由をつかむ。
- ・武力をもってしても日本に開国させたかったアメリカの切実な願いをつかむ。
- ・欧米からみた日本の重要性をアジアを中心とした世界情勢からつかむ。

本時の指導案

段階	学習内容	主な発問	指導上の留意点	資料	習得される知識
導入	1. 黒船と開国	<ul style="list-style-type: none"> ・ペリー来航の際幕府はなぜ、諸大名に意見を求めたのか？ ・なぜ、幕府は開国したのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・幕府が断固として鎖国体制を堅持してきたことを想起させ、諸大名に意見を求めた意味を考えさせる。 ・幕府が1854年に日米和親条約を1858年に日米修好通商条約を結んだわけを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート意見要求 ・ペリーの絵 ・ハリスの絵 	<ul style="list-style-type: none"> ・幕府は砲台を築く一方、朝廷に報告し、諸大名に意見を求めた。 ・ペリーは軍事力で、ハリスは巧みな交渉で日本に条約を結ばせた。
課題提示	なぜ、アメリカがいち早く日本と条約を結べたのだろうか？		<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカよりも早く日本に通商を迫っていた国があったことを想起させ、課題探究につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカは遅く日本にやっけてきて、日本の開国にいち早く成功した。
展開①	2. ペリー来航の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ペリーはなぜ艦隊を率いて日本にきたのか？ ・なぜ、このような要求を出したのだろうか？ ・なぜ、ペリーは条約を結ぶことができたのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ大統領国書の資料からペリー来航の目的を読み取らせる。 ・アメリカの19C半ばから産業革命に気づかせ、国書の内容を再検討させる。 ・軍事力を前提として、日米和親条約の内容から、アメリカ側の切実な願いをつかませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート国書内容 ・世界地図 ・ワークシート黒船の絵 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペリー来航の目的は、通商、燃料・食料・水の供給に難破船の保護だった。 ・アメリカは産業革命によって、捕鯨と中国貿易に力を入れてきた。 ・当時の帆付き蒸気船は、太平洋を航海するのに中継点が必要であった。
展開②	3. 世界の情勢と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、アメリカは太平洋航路が必要なのか？ ・なぜ、イギリスやロシアは日本との条約締結が遅れたのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の就航日数の資料から、イギリスとの競争に着目させる。 ・イギリスを筆頭とする西欧諸国がアジア進出を果していたことを想起させ、日本進出が遅れたわけを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート就航日数 ・世界地図 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカはイギリスと同じ日数でいける太平洋航路を確保したかった。 ・1850年代は、イギリスやフランスやロシアは戦争に巻き込まれていた。
まとめ	4. 日本の重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、朝鮮は明治時代まで鎖国を続けることができたか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本が明治時代に朝鮮を開国させたことを知らせ、欧米からみた日本と朝鮮について考えさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮は大陸部に位置し、市場も小さいので鎖国を続けることができた。

4 鎖国政策堅持

5 ペリー来航

【第2限】

アメリカはなぜ日本との条約が必要だったのだろうか。江戸時代をとおして幕府の動揺を考えてみよう。

※探究方式を用いて、オープンエンド化で政治的開国につなげた。(図3・図4参照)

1 ペリー来航と開国

2 課題提示

3 ペリー来航の目的

4 ペリーの来航と世界情勢

5 江戸幕府の動揺

【第3限】

江戸幕府の権威の低下に伴い、武士の尊皇攘夷運動から倒幕運動が高まったが、武士だけの力で幕府を倒すことができたのか。

1 ペリー来航と幕府の権威低下

2 安政の大獄と幕府の権威低下

3 尊皇攘夷運動

4 薩長同盟

5 倒幕

【第4限】

なぜ、15第将軍徳川慶喜は大政奉還を決心したのか。開国からわずか10年での大政奉還は日本の歴史にどのような影響をおよぼしたのか。

1 百姓一揆・打ちこわし

2 ええじゃないか

3 慶喜の決断

4 鎖国政策の評価

5 大政奉還の意義

5. 実践分析

(1) ワークシート

各クラスで実施した4時間分のワークシートの共通問題の中から、生徒が幕府・外国・武士・民衆の視点から、多様な回答が得られやすい5問を抽出した。(表1, 図2, 図4参照)

① 鎖国堅持

両クラスとも1限目の諸外国の通商の要求に対する江戸幕府の態度のまとめに位置づけた。両クラスとも授業の流れは同じなので、回答に大きな差は見られない。“キリスト教が入ってくるので”という考え方は、既習の小単元“幕府の成立と鎖国”で、幕府が鎖国に踏み切った理由の1つとして取り上げた印象が強かったためである。キリスト教も含めた“幕府に不都合な考え方が入ってこないように”という回答は、江戸時代の前半では正解であるが、こ

では諸外国が通商を求めてやってくる江戸時代後半であることから、“世界の貿易市場に投げ込まれて混乱しないように”のような回答が要求される。この質問から、中学校段階では、江戸時代の前半と江戸時代後半の諸外国の要求が変化しているという世界の動きとからめて日本の鎖国政策をとらえることが困難であることがわかる。

② 大名意見要求

Aクラスではペリーの来航に対する幕府の混乱という2限目の導入で、Bクラスでは本格的な幕府権力の動揺の始まりという3限目の導入として位置づけた。Aクラスでは“幕府だけでは決めれない”という幕府の権力の低下に関わる回答が多く、Bクラスでは“幕府の権威の低下”を意識している人数が多い。Bクラスの方が、諸大名に意見を求めるということの意味を深くとらえている。

③ 攘夷の失敗

Aクラスでは3限目の武士の攘夷運動の結果として、Bクラスでは3限目の薩長同盟の前段として位置づけた。両クラスとも一番多い回答が“攘夷は不可能である”となっている。両クラスとも次に多い“幕府を倒して天皇中心の新しい国家を”という回答は、小学校での学習を生かして攘夷の失敗と倒幕を関連づけている。両クラスともほぼ同様の回答であるが、Bクラスの“幕府にはもう頼れない”という回答は、幕府の権威の低下という視点を意識し、倒幕運動へつながる手がかりを発見している。

④ 意思決定

両クラスとも4限目の“政治的開国”を考える場面として位置づけた。徳川慶喜が実際に大政奉還したことにとらわれずに、自分だったらどうするのかということを中心に回答させた。両クラスともほとんど同様の回答であるが、Bクラスの方が政権維持の考え方が若干少なく、その他で“手を引く”という回答が多い。これは、Bクラスの方が幕末の状況を考慮し、幕府の権威の低下を強く意識しているためである。政権維持の場合、両クラスとも薩長との対立をなくし、外国勢力を味方につけるという安易な発想になっている。慶喜の置かれた立場を理解するには、外国勢力の日本侵略という視点も交えて、今までの社会システムを守ろうとする幕府と変えようとする薩長を中心とする倒幕勢力の三すくみでのとらえ直しが必要がある。

⑤ 鎖国政策の評価

Aクラスも、Bクラスも小単元“開国”の総まとめとして位置づけている。回答は、幕府の政権安定に役だったという視点と、日本の近代化の遅れたという視点の大きく2つに分かれている。鎖国の良い

図3 2-B “黒船と開国” 学習指導案

本時の目標

- ・産業革命をへたアメリカが、切実な願いから日本に開国を迫ったことをつかむ。
- ・外圧的な経済的開国の考えばかりでなく、内圧的な政治的開国の考え方も芽生えさせる。

本時の指導案

段 階	学習内容	主な発問	指導上の留意点	資料	習得される知識と問い
導 入	1. ペリーの来航と開国	<ul style="list-style-type: none"> ・日本は開国をしたかったのだろうか？ ・幕府がいつ開国したことになるのだろうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・幕府が鎖国政策を守り続けたことを想起させ、日本は開国を求めていることをつかませる。 ・ペリーが軍事力を背景に日本に來航したことを想起させ、1854年の日米和親条約、1858年の日米修好通商条約を比較させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板年表 ・ペリーの絵 ・ハリスの絵 	<ul style="list-style-type: none"> ・幕府は封建体制を維持するために、鎖国政策を守り続けたい。 ・ペリーは軍事力により、ハリスは巧みな交渉と脅しによって条約を結ばせた。
課 題	なぜ、アメリカは日本と条約を結ばなければならなかったのだろうか？		<ul style="list-style-type: none"> ・ペリーがなんのために威圧的な態度をとったのかを想起させ、課題探究につなげる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ペリーは今までの外国船と違って、黒船4隻で來航し、大砲で威嚇した。
展開①	2. ペリーの来航と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・ペリーはどんなルートで日本にきたのか？ ・人々が驚いた黒船とはどんな船だったのだろうか？ ・なぜ、日米の船に差があるのだろうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに作図をさせ、ペリー來航に興味を持たせる。 ・蒸気船サスケハナ号と日本の大型船と比較させ、違いを発表させる。 ・比較から、大型蒸気船であること、鉄を使用していることなどから、産業革命に結びつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート①作業 ・ワークシート①船比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペリーは、アメリカ東海岸から大陸経由で7カ月かけて日本に來航した。 ・色、大きさ、動力、仕組み、目的等が違う。 ・アメリカは19C半ばから産業革命が進行中であった。
展開②	3. ペリーの来航と世界情勢	<ul style="list-style-type: none"> ・ペリー來航の目的はなんだろうか？ ・なぜ、太平洋航路にこだわったのだろうか？ ・なぜ、アメリカが最初に条約が結べたのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ大統領国書の資料から開国要求の背景をつかませる。 ・当時の就航日数と資料から、アメリカにとっての太平洋航路の意味をつかませる。 ・イギリスやロシアのことを想起させ、当時の世界情勢を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート①国書 ・世界地図 ・ワークシート①就航日数 ・黒板年表 ・世界地図 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカは産業革命で、捕鯨と中国貿易に力を入れていた。 ・イギリスとの競争に勝つためには最短ルートの開発が必要であった。 ・イギリス・ロシアは1950年代に戦争に巻き込まれていた。
まとめ	4. ペリーの来航と幕府	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに幕府の動揺を矢印で示そう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日米修好通商条約以後、幕府の動揺が激しくなったことをつかませ、政治的開国につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート②二つの開国 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペリー來航の時のみ幕府は動揺したのだろうか？

表1 開国ワークシート回答結果

質 問	Aクラス40名	Bクラス40名
・幕府はなぜ、鎖国にこだわったのか？ (複数回答2以上)	<p>【第1時間 開国の要求】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府に不都合な考え方が入らないように…30 (うちキリスト教…22) ・幕府の意地……………7 ・外国の植民地にされないように……………4 ・幕府の貿易独占のため……………2 ・世界の貿易市場に投げ込まれ、混乱する…2 	<p>【第1時 開国の要求】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府に不都合な考え方が入らないように…29 (うちキリスト教…20) ・幕府の意地……………8 ・外国の植民地にされないように……………2 ・幕府の貿易独占のため……………2 ・世界の貿易市場に投げ込まれ、混乱する…2
・幕府はなぜ諸大名に意見を求めたのか？ (回答2以上)	<p>【第2時 黒船と開国】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府だけで決められなかった……………23 (重要な問題を定める力) ・幕府の権威の低下……………8 ・良い案が浮かばなかった……………7 	<p>【第3時 封建体制の揺らぎ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府だけで決められなかった……………14 (重要な問題を定める力) ・幕府の権威の低下……………13 ・良い案が浮かばなかった……………13
・二つの事件から薩長両藩はどんなことを学びとったのか？ (回答2以上)	<p>【第3時 開国後の日本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・攘夷は不可能である……………18 ・攘夷は不可能、幕府を倒して天皇中心の新しい国家を……………13 ・強くならなくては……………3 ・攘夷は不可能、外国と仲良く……………2 	<p>【第3時 封建体制の揺らぎ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・攘夷は不可能である……………19 ・攘夷は不可能、幕府を倒して天皇中心の新しい国家を……………12 ・攘夷は不可能、外国と仲良く……………2 ・幕府にはもう頼れない……………2
・民衆の不满、長州征討の失敗、薩長同盟の結成を知っていたら、あなたが將軍だったらどのような対策を取りますか？ (回答2以上)	<p>【第4時 薩長同盟と世なおし】</p> <ul style="list-style-type: none"> 《政権維持》……………24 ・外国や朝廷や藩などと結んで、薩長を倒す…10 ・幕府政治の方法を変える……………9 ・薩長と手を組む……………3 ・薩長を分裂させる……………2 《大政奉還》……………13 ・もうしょうがないので……………6 ・幕府の力が衰え、薩長が強いので……………3 ・民衆・武士が望んでいるので……………2 《その他》……………3 	<p>【第4時 世なおし】</p> <ul style="list-style-type: none"> 《政権維持》……………20 ・外国や朝廷や藩などと結んで、薩長を倒す…12 ・薩長と手を組む……………4 ・薩長を分裂させる……………3 《大政奉還》…10……………1 ・もうしょうがないので……………8 ・民衆・武士が望んでいるので……………2 《その他》……………10 ・手を引く……………8 ・一応戦ってみる……………2
・あなたは、江戸幕府の鎖国政策をどのように評価しますか？ (回答上位2つ)	<ul style="list-style-type: none"> 《評価する》……………8 ・幕府の政権が安定した……………4 ・日本独自の文化ができた……………2 《どちらかといえば評価》……………3 ・軍事力をつけておくべきだったが、政権が安定…2 ・近代化が進まなかったが、日本独自の文化…1 《どちらかといえば評価せず》……………6 ・政権が安定したが、近代化が遅れた……………3 ・独自の文化ができたが、近代化が遅れた…2 《評価しない》……………23 ・近代化が遅れた……………14 ・開国時に混乱した……………4 	<ul style="list-style-type: none"> 《評価する》……………3 ・幕府の政権が安定した……………2 ・日本独自の文化ができた……………1 《どちらかといえば評価》……………2 ・近代化が進まなかったが、政権が安定……………1 ・近代化が進まなかったが、日本独自の文化…1 《どちらかといえば評価せず》……………15 ・政権が安定したが、近代化が遅れた……………6 ・独自の文化ができたが、近代化が遅れた…5 《評価しない》……………20 ・近代化が遅れた……………16 ・幕府の利益のみ考えていた……………2

点・悪い点を両方挙げて“どちらかといえば”という回答がBクラスに多く、歴史事象に対する多面的な見方ができている。また、表1には表れていないが、“外国の植民地にならなかった”という理由で鎖国を評価している生徒が各クラス数名いた。質問①の鎖国堅持のところで、“植民地にならないように”という意見がみられ、開国すれば植民地にされるという一面的な見方がなされている。この一面的な見方を修正するためには、外国勢力は何を目的としてアジアにやってきたのか、どのような国が侵略され植民地化されていったのかという世界的な視点からの学習を深める必要がある。

(2) 確認テスト

小単元“開国”を終了後、両クラスで時代の転換期の要因である外国・武士・民衆の動きと、それに対する幕府の動揺を確かめた。(図5, 表2参照)

両クラスとも正答数はほぼ同様である。しかし、世界の動きに対する幕府の動揺や、武士の動きと民衆の動きに対する幕府の動揺(二つの開国)を図示の形でとらえている人数(作業1~4の総数)が、AクラスよりもBクラスの方が多い。また、幕府の内外の二つの側面からの幕府の動揺を図示できている人数(作業1・4の総数)も、Bクラスの方がAクラスをかなり上回っている。このことからBクラスの方が外的要因・内的要因のそれぞれの視点に対して、幕府の動揺と権威の低下を意識していることを示している。

作業1~4から、“二つの開国”の意味を言葉で表わす問題5では、Bクラスの前正答者数がAクラスに比べてかなり少ない。これはBクラスが視点別に単元を構成したため全体での流れがつかみにくかったことと、Bクラスの授業のみ、“1854年の日米和親条約と1858年の日米修好通商条約ではどちらが開国となりますか”という発問をし、その印象が強烈にのこっているためである。実際、Bクラスでは問題5で“1854年の日米和親条約と1858年の日米修好通商条約”という回答をしている生徒が15名いた。(Aクラスでは3名)この発問がなければ、全体の正答数もかなり高くなっていたことが見込まれる。

次に、問題5の正答の内容をみてみると、大部分が“外国と貿易を始めるといういわゆる開国と、幕府から天皇に政権が移った大政奉還”としている。Aクラスのみ、“政治的な開国と経済的な開国”という端的な回答ができてきている。これは、経過把握・課題解決型でも、本単元のAクラスの実践のように1854~58年と1866~67年の2時点で絞って考察させるような授業を仕組みれば、“経済的開国・政治的開

国”をとらえることができることを意味している。

(3) オープンエンド化ワークシートと確認テスト

Bクラスでは、確認テストをする前に、2限目のオープンエンド化の場面で江戸時代の幕府の動揺を矢印で図示している。(図6, 表3参照)

2限目の時点で、二つの開国を漠然と意識できていた生徒は25人(表中I・II・III, 人数)であった。クラスの1/3強(表中III・IV, 人数)は開国を強く意識しているが、これは小学校で開国の後に明治維新を学習するという団子方式学習のためである。

ワークシートと確認テストを比較すると、ワークシートで幕府の動揺が開国よりも幕末が大きいと回答した生徒が、確認テストで外国・武士・民衆の動きと幕府の動揺が理解できているわけではなく(表中I, 1~4正解)、むしろ開国を強く意識していたほうが正答率が高くなっている(表中III・IV, 1~4正解)。これは、確認テストの生徒の回答が本単元での学習の成果であることを示している。開国を強く意識していた生徒は、開国から大政奉還までの各視点からの動きと幕府の動揺を本単元で学習したことによってもう一つの開国を意識している。“二つの開国”の意味が理解できたかという面では、幕府の動揺が開国よりも幕末が大きいと回答した生徒と、開国のみ意識していた生徒の正答率が高くなっている(表中I・IV, 5正解)。ワークシートで開国のみ意識していた生徒は本単元での学習によって幕末の動揺の認識が高まったことがわかる。

6. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

本研究は、時代の転換期学習を、一時間完結型とオープンエンド型授業から二つの単元を構成し、比較実践して、オープンエンド型授業の有効性を検証しようとした。ワークシートの分析から、オープンエンド型授業を取り入れたBクラスの方では、Aクラスに比べて多面的な考え方や思考の深まりが確認できた。また、Bクラスの方が転換期学習の要素である外国・武士・民衆の動きとそれに対する幕府の動揺と幕府の権威の低下を強くとらえることができていた。

しかし、定期テストに時代の流れを問う問題を出題したところ、Aクラスの前正答が21人に対して、Bクラスの前正答が7人という結果となった。Bクラスでの視点把握型のオープンエンド型授業では、時代の転換の要素を視点として考察していくために、歴史事象の年代の前後関係をつかむことが困難であった。(図7参照)

図5 確認テストの例

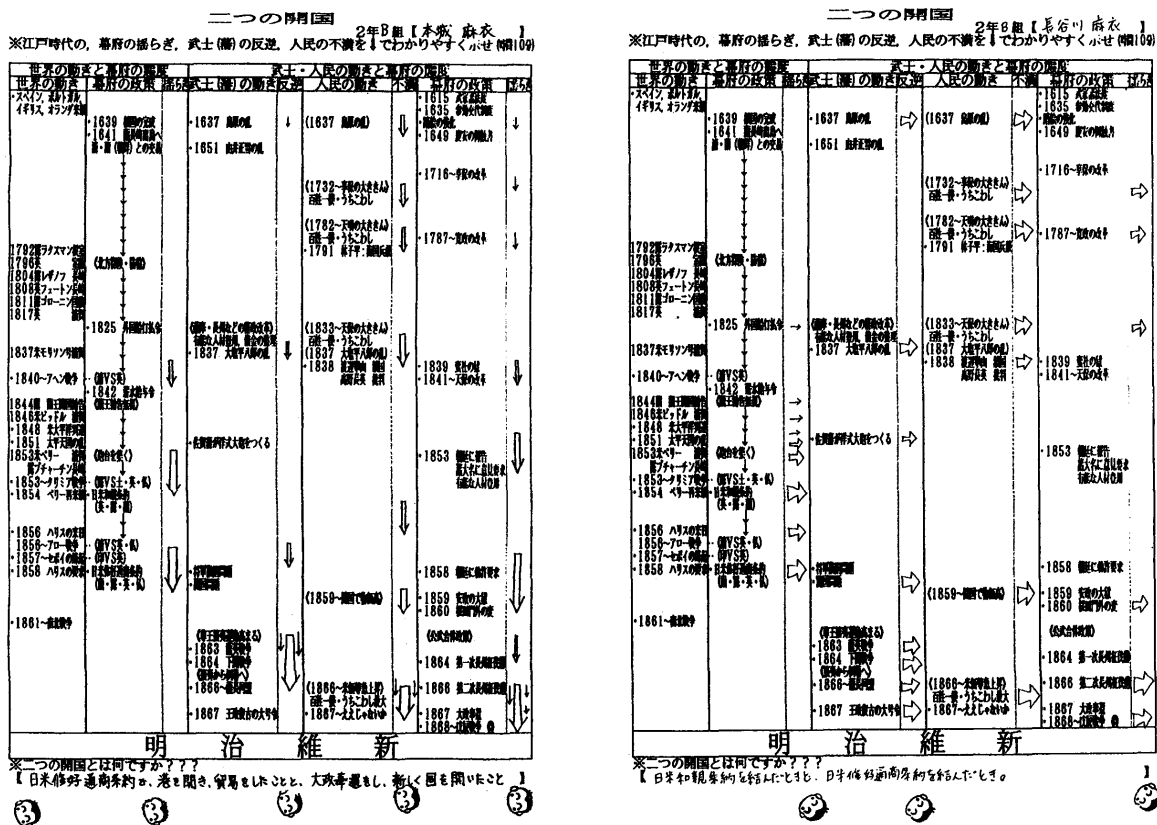


表2 確認テスト結果の比較

2-A							2-B						
正解	5つ	4つ	3つ	2つ	1つ	計	正解	5つ	4つ	3つ	2つ	1つ	計
人数	13	19	7	1	0	40	人数	15	17	6	2	0	40
1~4	13	9	0	0	0	22	1~4	15	13	0	0	0	28
1・4	13	12	4	0	0	29	1・4	15	16	3	0	0	34
5	13	10	3	0	0	26	5	15	4	0	0	0	19
5 の 内 訳 2以上	<ul style="list-style-type: none"> ・普通の開国と大政奉還(幕府政権の開国)…9 ・政治的な開国と経済的な開国…5 ・普通の開国と武士から天皇の政治へ…5 ・普通の開国と武士・人民の不満解消…3 						<ul style="list-style-type: none"> ・普通の開国と武士から天皇の政治へ…8 ・普通の開国と大政奉還(幕府政権の開国)…5 ・普通の開国と幕府から新政府へ…3 ・外国との開国と日本の中の開国…2 						

※1…世界の動きに対する幕府の揺らぎ 2…武士(藩)の反逆 3…民衆の不満 4…武士・民衆の動きと幕府の揺らぎ 5…1~4の矢印から二つの開国を考える
 1~4…正解者は二つの開国を矢印で表せている 1・4…正解者は内外の二つの側面から幕府の揺らぎを表せている 5…正解者は図から二つの開国の意味を理解できている

図6 オープンエンド化ワークシート (2-B)

二つの開国 2年B組【本城 加衣】				二つの開国 2年B組【長谷川 麻衣】						
年代	世界の動き	開国政策	封鎖制度維持派	動揺	年代	世界の動き	開国政策	封鎖制度維持派	動揺	
1600	スペイン、ポルトガル、イギリス、オランダ来航	・1639 蘭館の完成 ・1641 蘭館移転へ前・蘭(蘭)との交渉	(蘭館の築)		1600	スペイン、ポルトガル、イギリス、オランダ来航	・1639 蘭館の完成 ・1641 蘭館移転へ前・蘭(蘭)との交渉	(蘭館の築)		
1650					1650					
1700			・1716-享保の改革		1700			・1716-享保の改革		
1750			・1787-天明の改革		1750			・1787-天明の改革		
1800	・1792 露・オスマン帝国 ・1796年 露 ・1804 露・オランダ ・1808 露・フランス ・1811 露・フランス ・1817年 露	(北方露・露) ・1825 外国船打合 ・1842 露・蘭通商手合(露王儲即位)	・1839 露館の築 ・1841-天保の改革		1800	・1792 露・オスマン帝国 ・1796年 露 ・1804 露・オランダ ・1808 露・フランス ・1811 露・フランス ・1817年 露	(北方露・露) ・1825 外国船打合 ・1842 露・蘭通商手合(露王儲即位)	・1839 露館の築 ・1841-天保の改革		
1850	・1837 米・モリスン号捕獲 ・1840-アヘン戦争 .. (開VSA) ・1844 蘭 蘭王即位 ・1846 米・ドットマン ・1848 米・大分県開港 ・1851 米・大分県開港 ・1853 米・ペリー	・1854 <日米和親 条約> (英・露・蘭)	・1853 蘭館の築 幕末に蘭館の築 幕末に蘭館の築	↓	1850	・1837 米・モリスン号捕獲 ・1840-アヘン戦争 .. (開VSA) ・1844 蘭 蘭王即位 ・1846 米・ドットマン ・1848 米・大分県開港 ・1851 米・大分県開港 ・1853 米・ペリー	・1854 <日米和親 条約> (英・露・蘭)	・1853 蘭館の築 幕末に蘭館の築 幕末に蘭館の築	⇒	
	・1856 ハリスの来日 1856-アヘン戦争 .. (開VSA・蘭) ・1857-アヘン戦争 .. (開VSA)			↓		・1856 ハリスの来日 1856-アヘン戦争 .. (開VSA・蘭) ・1857-アヘン戦争 .. (開VSA)			⇒	
	・1858 ハリスの来日	・1858 <日米修好通商 条約> (蘭・露・英・仏)	(蘭・露・蘭) ・1859 蘭館の築 ・1860 蘭館の築 (蘭・露・蘭)	↓↓		・1858 ハリスの来日	・1858 <日米修好通商 条約> (蘭・露・英・仏)	(蘭・露・蘭) ・1859 蘭館の築 ・1860 蘭館の築 (蘭・露・蘭)	⇒	
	・1861-維新戦争		・1864 幕末に蘭館の築 ・1866 幕末に蘭館の築 ・1867 幕末に蘭館の築 ・1868-維新戦争	↓↓↓		・1861-維新戦争		・1864 幕末に蘭館の築 ・1866 幕末に蘭館の築 ・1867 幕末に蘭館の築 ・1868-維新戦争	⇒	
	(明)	(治)	(維)	(新)		(明)	(治)	(維)	(新)	

表3 オープンエンド化ワークシートと確認テスト

回答	I 開国<幕末	II 開国=幕府	III 開国>幕末	IV 開国のみ	V その他
人数	13	6	6	10	5
5つ正解	5	2	1	5	2
4つ正解	6	2	4	3	2
3つ正解	2	1	1	2	0
2つ正解	0	1	0	0	1
1~4正解	8/13	4/6	5/6	8/10	3/5
1と4正解	10/13	5/6	6/6	9/10	4/5
5正解	8/13	2/6	1/6	5/10	3/5

※縦軸は単元終了後の確認テスト、横軸は“黒船と開国”によるワークシートによる

図7 定期テストの一例

- A 世の中が変わることを期待し、人々は大阪・東海を中心に熱狂的な騒ぎをおこした。
 B (I) 藩は英艦隊に攻撃、(II) 藩は4国連合艦隊に下関砲台を占領された。
 C 15代将軍 a 徳川慶喜は政権を朝廷に返上した。
 D (I) 藩と (II) 藩との同盟が坂本龍馬の仲立ちで成立した。
 E 開国への反感から b 尊皇攘夷運動が高まった。

- ① 文中 () I に当てはまる藩名を答えよ。
 ② ~~~~~ 線 a について、このことをなんというか。
 ③ ~~~~~ 線 b について、なぜこのような運動がおこったのかを説明せよ。
 ④ A~E を年代順に並べ変えよ。(完答)

世界的な視野から日本の開国を考察する試みでは、生徒はイギリスやロシアとアメリカ合衆国の立場の違いを把握し、アメリカ合衆国の立場から、日本の重要性と日本を開国させたい切実な願いを把握することが可能であった。しかし、世界の動きに対する幕府の政策の意味を一面的にとらえたり、他のアジア諸国で行われていることをそのまま日本にもあてはめたり、開国後の1番の貿易相手国がイギリスである理由等をつかめないでいた。よって、ある一つの外国の立場に立って歴史事象を考察することはできるが、世界全体の動きをみすえて日本の歴史事象を考察することは中学校段階では困難であることがわかった。

(2) 今後の課題

今回の試みたオープンエンド型授業は、単元の構成に工夫を加え、生徒の追求が続くように単元の終末にも手立てを講じようとしたものだった。Bクラスでは、Aクラスと比較して多面的で深まりのある考察ができ、外国・武士・民衆の動きの各視点の動きと、それに対する幕府の動揺という関係がとらえやすいことが実証できた。しかし、Bクラスの実践では単元の中核をなす“経済的開国・政治的開国”に関わって、幕末全体をとおしての社会システムとの転換を追求していく方法が不足していたため、“二つの開国”の文章的把握に弱さが見られた。Aクラスの場合は経過把握・課題解決型であったけれども、“経済的開国・政治的開国”に関わる歴史事象が焦点化されていたために、“二つの開国”の文章的把握ができていた。

今後は時代の転換期学習に求められる新しいシステムの変容についての質的な分析を深め、その成果が一層単元構成に組み込めるような形でのオープンエンド化を図らなくてはならない。また、今回のBクラスの実践は、課題を終末部にも設定するという簡易なオープンエンド化の形であり、片上教授がかかっているような思考の往復運動⁸⁾が十分に達成できていない。よって、方法論としてのオープンエンド化も取り入れた実践でのオープンエンド型学習の有効性の検証が必要である。

本実践は時代の転換期の社会システムの変革をとらえるオープンエンド型授業としては不十分だったが、生徒の多面的な見方や思考の深まりがみられたという点では一つの有効性が確認できた。

あ と が き

社会科教師として、現場にそった形での“社会科歴史”授業を常に目指している。そのためには、生

徒の主体性を保障しなければならない。本研究は1998年度の教育実習授業で課題解決型の授業⁹⁾を実践したことから始まった。この授業をオープンエンド型授業の提唱者である片上教授に参観して頂き、ご指導を頂いた。その後、問題解決型の授業をベースに授業のオープンエンド化をはかり、1998年度の校内研究授業として実践した。オープンエンド化した授業の効果を検証したいという問題意識から本実践をまとめてみることにした。

注

- 1) 小原友行氏は歴史そのものを教授する授業をこのようによんでいる。
小原友行『初期社会科における歴史授業論—「歴史科歴史」から「社会科歴史」へ—』広島大学学校教育学部紀要 第12巻 1990年
- 2) オープンエンド型の授業とは、問い続けられる授業の姿であり、“わかったこと”を基に、真に追求に値する深い疑問を持って終了する授業とされている。研究者はオープンエンド型の授業は生徒の深い疑問から出発するので、“歴史科歴史”から“社会科歴史”授業へ近づける1つの方法であると考えている。
片上宗二『オープンエンド化による社会科授業の創造』明治図書 1995年, p. 12
- 3) 文部省『中学校指導書社会編』1989年, p. 55
- 4) 本実践では、開国と鎖国を対としてとらえ、貿易が始まった時点を開国としてとらえる。
- 5) 学者の中にはペリー来航後の開国を明治維新ととらえている人もいる。
週刊朝日百科『日本の歴史93開国』1988年, p. 15
- 6) ワークシートの回答は1~2人に例として発表させる場合もあるが、正解を授業では取り扱わずに個々の考えを自由に回答させた。
- 7) 政治的開国という言葉はないが、幕府の閉ざされた支配体制から、新しい支配体制に開くという意味である。実際に生徒が確認テストの“二つの開国”とはの回答で、政治的開国と経済的開国という言葉を用いており中学校段階で使用することは有効であると考えられる。
- 8) 前掲2 pp. 104-105
- 9) この授業は、教師が課題を設定し、それについて生徒が課題を解いていくという型で、多くの熱心な先生方が取られる方法である。しかし、教師主導型であることはいなめない。

参考文献

- ・小原友行『社会科における意志決定』社会科教育学ハンドブック 明治図書 1994年 pp. 175-176
- ・石井寛治『体系日本の歴史12—開国と維新—』小学館 1989年 pp. 8-174
- ・芝原拓自『日本の歴史23—開国—』小学館 1975年 pp. 30-141